

# 光一中だより

## 教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校  
校長 豊田 貴志  
令和6年度 第8号  
令和6年12月5日

## 「四季のうつろいと感染症」

校長 豊田 貴志

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる（春は明け方がいい。だんだんと白くなっていく山の稜線が、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている景色が、趣き深くていいのだ）。

上記は「枕草子」の有名な冒頭です。筆者である清少納言は、「春は明け方がいい」と言っています。「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」と続きます。枕草子は平安時代の中期の随筆です。およそ1000年前の人々も、私たちと変わらぬ感性で日の出や夕暮れに心ひかれ、四季のうつろいを感じ取っていたと思うと感慨深いものがあります。

ところが近年、春と秋が短くなり「四季」が「二季」になりつつあるのでは、と危惧(きぐ)する声があがっています（もちろん仮説です）。今年の夏はとても長かったのは記憶に新しいところです。今年、最後に夏日（25℃以上）となったのは10月24日です。今年の夏日の数は153日目で、これまで最多の143日（2023年）を超えました。11月も気温の高い日が続き、夏日とまでいかなかったとしても11月17日には最高気温23.8℃と平年を上回る気温となりました。夏が長かった分、秋がたいへん短く、ここ最近で一気に冬らしくなってきました。この影響は様々な点において影響が出ています。

感染症については、夏に流行しやすいとされている溶連菌や手足口病、秋口から冬にかけて流行しやすいとされているインフルエンザやマイコプラズマ肺炎が同時期に流行しているのも、秋が短かった影響ではないかと言われています。感染症が治ったらすぐに次の感染症にかかってしまう、「感染症ドミノ」という言葉を私も初めて聞きました。感染症への対策、寒暖差、気を付けていきたいことが多く、毎日の生活を改めて見直していきたいところです。



長いと思っていた2学期もあと1カ月を切りました。ちょうど今は面談期間です。日々の学校生活を担任の先生やご家庭の方とともに振り返り、3学期に向けてよいことは継続、できなかったことは改善していきましょう。